## 冬季俳句会(令和2年度)「句報」(「選句」結果報告

恵永優	優 恵 訓 花 恵 売 志 志 志 志 ・ 記 志 志 志 ・ 志 ・ も も も も も も も も も も も も も も	ii	陽 恵 <b>克</b> 陽 訓	<mark>徳</mark> 由 <mark>訓</mark> 敏 秀 亘 福 志	「選句」赤文字特選
冬帽子道路に白く止まれの字鳥発つ向ひの家に片時雨立冬や禿びり初めたる杖の先家々の取り残されし柿落ちてかニサボテン丹後の海へ繋がり秋の蝶優雅にそして残酷に	葉優催になって残告や井戸水ぬるく土ぬくい蟹の山小屋野菊との別い蟹ゆず酢ほのかに待つタエ山 登る 足もと冬のエムコ 子ら芝滑る冬の入とする汁のひと口今朝の	一つの間に賑わひしをり冬のいに黄にパレット忙し冬来のです。 旅コロナ禍厳し冬籠の To 旅コロナ禍厳し冬籠に来て波音ばかり冬立ち	ココナで亢いインフレビ朱利け好事家に十一月場所の居反り勝西 口 は 甲 州 街 道 雪 し ま く冬立ちていよいよコロナ奮いたち冬立つ日喪中はがきの二通来て冬 入 り て 古 竹 震 ふ 鳰 の 海冬入りてマスクの顔も良く似合ふ	冬入りて句会発足母校の舎蕎麦湯の香満る学食午後の鐘冬来たり三波の兆し師を案ず基 薫 る 仕 事 合 間 の 年 賀 状土 の 年 賀 状土 の 年 額 水 かかえて歯科の門	「投句」作品
中中中小小小野野野松松松松陽陽陽果共子子	小 小 都 都 都 前 公 松 松 松 區 福 福 福 福 香 子 子 仁 仁 一	前前前前本本海 日田田田多多美 一一一一博博	本 本 佐 佐 佐 佐 藤 藤 茂 通 博 博 弘 弘 弘	佐 戸 戸 戸 戸 堂 賞 博 博 之 之	作者

陽多恵福由克秀博

由多優秀

敏徳陽

由徳福

亘茂福志博

見

舞いなく八十路の床に冬立て

ŋ 守

西村敏治

中野亘子 中野亘子

茂崎克秀

指

折

病室の床春を

つ

西村敏治

の な

友と語り

の

盾

西村敏治 西村敏治

季決勝

戦

陽克

冬

ラ

イ

離れし里

の

る

加龍恵子

加龍恵子

し友思ふ冬立

ち

西村敏治

じ

ゃれ合ひて子犬の駆ける今朝の

立ちて母校訪ねば子等眩

花

辺 の

草

濡れて色なほ深し今朝

冬 冬

加龍恵子 加龍恵子

加龍恵子

王

コ

ロナ禍のマスク買い足し冬に入る

林とふ林檎の色を淋しめ

ŋ る

永圭博

圭崎

蔭につわぶきの黄色自己主張

気配凛たり心締

む

て

佑子 佑子 日もまた同じ処に冬バ

タ

齋藤優子 齋藤優子

茶花の庭彩りて散り敷き

ナ余波オンライン始む冬講座 がらふと柊の香のゆか 立

亘志

多博

多圭

匂

どうだんの燃ゆるが如し冬たちぬ ここでないどこかへゆきたや秋納骨

いきて開花を知りぬ金木

犀

齋藤優子 齋藤優子

齋藤優子

天を突如震わすへリ編

敏恵訓

冬

富 任

立

冬

朝

の風色変り来

る 池

富岡訓子

富岡訓子

報あり

一気に還るあの冬日

て大きく光明

富岡訓子

富岡訓子

富岡訓子

Щ

枯菊をたばねかすかななのごりの香

やぶさ2生む町工場冬日照

る

山家由紀 山家由紀

つ

空に影絵の富士や夕餉待

山頂雪少なくて里温

命除外怒りと危惧の冬立ち

ね

山家由紀

山家由紀

川の文字美しく冬立つ

H

山家由紀

佐藤多恵子 佐藤多恵子 佐藤多恵子 佐藤多恵子 佐藤多恵子

陽佑

永佑

歩道石蕗ひときは

の黄を揚

や憶良の歌をつぶや

亘

郎逝け

り近松忌

の 近

こと祈り

出ずれば

令

天

平

す

中野旦子

中野亘子

-野亘子

あけぼの杉は天を

の

## 【選句についてお願い】

- お一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。
- 選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。
- 「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いできればなお結構です。

## 投句、選句者氏名 () 内は選句者略号(五十音順)

佑 子 (佑)、 、井狩 修 (修)、 岩崎悦子(崎)岩壷克哉(克)、加龍惠子(恵)楠野圭子(圭)、

小松康子 (康)、斎藤優子 (優)、佐藤多恵子 (多)、佐藤茂弘 (茂)、戸堂博之 (博)、富岡訓子 (訓)、

(福)、宮本智乃 (智)、元永悦子(永)、山家由紀(由)、吉澤志保子(志) 中野亘子

(亘)、中野陽典

((陽)、

敏)、

本多通博(通)、前田秀一(秀)、

三木徳彦 (徳)、